

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
7月10日
第133号



ニワウルシ（ニガキ科）

ひょうたん池の角にある高木に、まだ花が見られるかと期待したのですが、すでに果実になっていました。花期は5～6月、中国原産で日本には明治初期に渡来しました。雌雄異株ですが、この木は花を見てないので不明です。樹形や葉がウルシに似て鑑賞用に庭に植えたことからニワウルシと呼びます。英名の「Tree of heaven」の直訳の神樹（シンジュ）という別名もあります。長い羽状複葉が目立ち、ウルシに似ますが、触ってもかぶれることはありません。果実は翌果で、風に飛ばされ散布され、晩秋まで白く美しく残ることもあります。ヤマユガ科シンジュサン（神樹蚕）の食樹としても知られ、かつて養蚕目的で栽培、野生化して、侵略的外来種に規定されています。根皮や樹皮が樗白皮（チョハクヒ）という生薬となり、清熱燥湿、駆虫を目的に、不正性器出血等に用います。

ハナハッカ（シソ科）

一般的には「オレガノ」の名称の方がポピュラーでしょうか。第二圃場に、伸びた枝に桃紫色の小花が散房状に咲いているのが見られます。地中海沿岸に自生する多年草で、日本には江戸時代末期に渡来しました。ハナハッカの茎葉には清涼感のある爽やかな香りがあり、西洋では「オレガノ」という名で料理には欠かせない香辛料として利用されます。肉料理、トマト料理などのさまざまな料理の風味づけに使われ、特にピザに使われるのは有名です。生葉より乾燥葉のほうが青くさが無いので使いやすいです。また、ハーブティーの原料としても使われます。また、全草が牛至（ギュウシ）という生薬となり、発汗解表を目的に、感冒、胃腸炎などに用います。